

佐渡伝統文化研究所だより

佐渡伝統文化研究所

(佐渡市教育委員会
世界遺産・文化振興課内)
2007年12月17日(月)
第1号

刊行のこトバ

佐渡伝統文化研究所 所長 石瀬佳弘

佐渡独特の歴史や文化、多様で豊かな自然などの調査研究と保存活用をめざして「佐渡伝統文化研究所」が設立され、約9か月が経過しました。この間、島内外から貴重な資料や情報の提供をいただき、ホームページも徐々に充実してきています。しかし、収蔵庫や閲覧場所等が未整備のため、資料を直接閲覧したり、互いに研究の成果や疑問などを持ち寄って話し合ったりするといった、研究所がめざす本来の機能が果たせていないというのが実態であります。ただ、歴史・文化や自然を含む指定文化財に関する質問やご意見には出来る限りお応えするようしており、年間約200件にも及んでいます。今後は、一日も早く施設面での整備を急ぎ、より一層利用しやすい研究所にしていきたいと考えています。特に、収蔵庫の確保は緊急を要する課題で、提供いただいた資料等を安全に保管することに努めて参ります。

今、地方と中央の格差が叫ばれています。この克

服は、離島にあっては一層難しいように思います。しかし、幸い佐渡には、貴重な文化財や自然景観などが数多く残されております。

例えば、古代からの金銀山とそれによって育まれた芸能や文化、流人や廻船によってもたらされた文化、そして多様で豊かな自然にも恵まれております。これらをきちんと調査・整備・保存していくと同時に、特色ある地域づくりや人づくり、さらには観光資源として生かしていくこと以外に、佐渡活性化の途はないように思います。その為には、私たち島民自身がそのすばらしさに気づき、誇りと感謝の気持ちを持つことが大切であり、その時はじめて佐渡を訪れる人々にも感動を与えることが出来るのだと考えます。その一翼を担えるよう、研究所の充実に職員一同さらなる努力をしたいと考えていますので、一層のご協力をお願いいたします。

平成19年度上半期事業について

平成19年度上半期は、次のような事業を行いました。(下半期へ継続するものも含む)

1 佐渡伝統文化研究所の総合施策に関する調査・研究・報告・情報発信

- 蓮華峰寺・小比叡神社保護管理調査……防災機器の設置状況を調べました。
- 石造物データベース化……佐渡の石造物の情報を、データベース化しています。
- 登録有形文化財候補物件調査……本光寺(沢根)、長谷寺を国の登録有形文化財にするための現況調査を実施しました。
- 文化財現況調査……寺院や建造物の現況を実見し、今後の対応を検討するための資料を作成しました。また、寄贈・調査依頼のあった歴史資料や古文書の内容を精査し、目録・調査報告書を作成し、今後活用していく条件を整

えました。

- 各種情報提供……6月に当研究所設立を紹介するリーフレットを、主に行政機関に配布しました。また、年度当初から佐渡島内の文化財や歴史に関する各種問い合わせ・情報提供依頼が多数あり、対応しました。
- 2 佐渡の歴史・文化・自然に関するデジタルアーカイブ化……調査結果等の各種資料をデジタル化し、可能なものから順次、公開しています。
- 3 佐渡伝統文化研究所ホームページの運営……ホームページ内容は随時更新しています。世界遺産・文化振興課の活動の最新情報もご覧いただけるようにしています。
- 4 天領ゼミナール開催、記録集刊行……8月に「佐渡金銀山の研究」をテーマに開催しました。天領ゼミナール記録集(講演内容を収録 B5判)は、現在編集中です。

【資料紹介】相川地区 ^{ずいせんじ} 瑞仙寺所蔵の ^{ねほんず} 涅槃図

相川の中寺町にある日蓮宗の瑞仙寺は、佐渡金山の山師であった味方但馬家重の息子家次が、先祖菩提のために建立したことで知られています。今年为天領ゼミナール見学先でもありましたが、その際に普段非公開の涅槃図を、ご住職の青木練昇氏から特別に公開していただきました。

涅槃図は、釈迦の死の場面を描いたものです。釈迦の入滅の時期については、紀元前543年頃、同483年頃、同383年頃とするなど、一定しておりません。事前視察の際にこの寺宝である涅槃図を初めて見せていただいたところ、とても大きなもので、杉材の細長い箱に納められていました。驚いたことに、古来、涅槃図には描かれることがないネコが描かれている類いまれなもので、お釈迦様が入滅した日である2月15日、満月の右側には題目が書かれていました。

また、涅槃図や箱には墨書で寄進者のことや絵師の名前が書かれています。佐渡市文化財保護審議会委員の本間滯子氏より、『佐渡国略記』「寛延2年」の項に、この涅槃図のことが記述されていることを教えていただきました。

これらの調査でわかったことは、

- ① 寛延2(1749)年に、大野村根本寺27世である日要が、根本寺末である相川瑞仙寺に、自分の父と母の菩提をとむらうために、寄進された一幅の涅槃図である。
 - ② この涅槃図が寄進された時の瑞仙寺住職は日演であった。
 - ③ この涅槃図を描いた絵師は、青木村の九兵衛倍英という人である。
- ということです。

では、なぜネコが描かれているのでしょうか。普通、涅槃図にネコが描かれない理由は、釈迦が飲まれる薬を、ネズミがとりに行こうとしたところ、ネコがじゃまをしたことや、釈迦の危篤を知った動物たちが集まる際に、ネコが大変遅れてきたことなどが伝承されています。推測ですが、釈迦が飲まれる薬をとりに行ったネズミをじゃました行為を悔やんで悲しんでいる姿として、この絵師は描いたのではないのでしょうか。

いずれにしても、今からおよそ260年も前のものが極彩色で描かれたまま現存し、なおかつネコが描かれ



図1 涅槃図全体図(上部中央に、題目が書かれています)



図2 涅槃図 部分(中央にネコが描かれています)

ている、『佐渡国略記』にもふれられているという点で、大変貴重なものと思われます。

残念ながらいろいろと調べてはみましたが、「青木村の九兵衛倍英」という方がどんな絵師であったかがわかりません。ご存じの方がいらっしゃったら佐渡伝統文化研究所までご一報下さい。



瑞仙寺

伝文研ホームページの活用について

佐渡伝統文化研究所では、佐渡の「歴史と文化」に関する情報提供のために、ホームページを立ち上げております。現在、国・県・市の指定文化財の解説や、佐渡に関する文献の検索、佐渡市発刊の研究集録の内容(PDF版)等を紹介しております。また、研究所や世界遺産・文化振興課内で調査・研究した結果は、史料や資料の提供先から許可を得たものから随時紹介するようしております。

ホームページは、グーグル ヤフー や google や Yahoo など「佐渡伝統文化研究所」で検索するか、佐渡市役所ホームページの右側バナー「佐渡の歴史と文化」又は佐渡市教育委員会ホームページ「世界遺産・文化振興課」から入れます。

調べたい内容は、佐渡伝統文化研究所ホームページの右上の「Google 検索」の□(①)内に、キーワード(用語)を入力し、検索ボタン(②)を押してください。内容が表示されます。(現段階では、100%検索できません。)



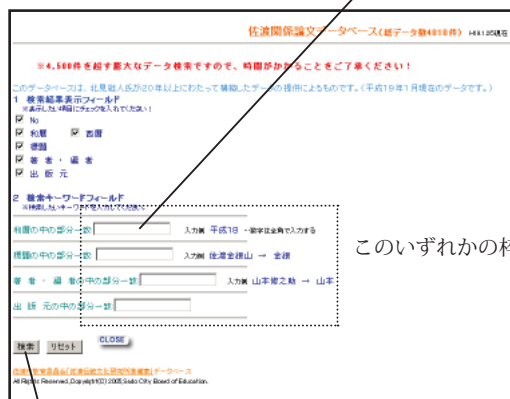
ホームページ活用の一例として、掲載のデータベースの活用について紹介します。ホームページ内のデータベースとしては、次のようなものがあります。

佐渡関係文献検索、指定文化財検索、埋蔵文化財検索、簡易歴史年表検索、佐渡人物検索、流入検索、佐渡災異誌データ検索、旧市町村史(全目次)、神社検索、寺院検索、伝統芸能検索

検索する場合は、簡潔なキーワードを使うことがコツです。

例 調べたい内容 文献検索の場合

1 検索キーワードフィールドの□内に調べたいキーワードを入力します。



2 検索 ボタンを押します

画面にも記載してありますが、簡単な用語を入力するのがコツです。

他のデータベースも操作法は基本的に同じです。ぜひ、各データベースの検索に挑戦してください。よい資料が得られると思います。

天領ゼミナールの報告及び記録集発刊のお知らせ

第23回天領ゼミナールを下記のとおり開催することができました。参加・協力いただいた皆様に厚く感謝申し上げます。

- 日時 平成19年8月4日(土)、8月5日(日)
- 会場 佐渡市中興 金井能楽堂
- テーマ 「佐渡金銀山の研究」
- 講師 記念講演 原田洋一郎氏「石見銀山と佐渡金銀山—その持続へのそれぞれの営み—」
- 演能 本間英孝氏「羽衣」
- 基調講演 田中圭一氏「佐渡金銀山の成立」
- 研究発表 仲田善夫氏「高千鉱山」
- 研究発表 金子 勉氏「南沢疎水坑」
- 対談 加藤貫一氏・佐藤利夫氏「滝沢銀山」

現地見学 「相川寺町方面を歩く」

参加者 99名

参加者アンケートでは、多くのご意見・ご感想が寄せられました。好評や励ましとともに、音響や照明その他発表をわかりやすくする工夫が事務局に足りなかったのではないかのご指摘、初心者向けや世界遺産登録運動との連携の要素を方向性に入れてはどうかのご意見をいただきました。今後に向けて糧とさせていただきます。

なお、昨年度大会の記録集『第22回全国天領ゼミナール記録集』(B5判 108ページ 1,300円)を刊行しました。お問い合わせは、天領ゼミナール事務局(電話0259-27-4170)か佐渡市立中央図書館(電話0259-63-2800)までお願いします。

佐渡伝統文化研究所からのお願いー歴史資料の保存にご協力を願いますー

家を建て替える際や家財道具の整理の際に出てきた、古い書類や書物などを捨てないでください。

古文書や写真、書籍、手紙、掛軸、佐渡で発行された戦前・戦後の新聞・雑誌などは、地域の歴史や家の歴史を伝える重要な資料です。これらの資料保存の方

法等について、ご相談に応じますので、佐渡伝統文化研究所（佐渡市教育委員会 世界遺産・文化振興課 資料係 電話 27-4170）へお問い合わせください。

歴史資料を寄贈していただき大変ありがとうございました

8人の方々から佐渡伝統文化研究所にそれぞれ歴史資料を寄贈していただきました。

○泉地区 羽入正路氏

佐渡の郷土史に関する基本文献（約220点）

○千種地区 笠井正明氏

近代における教育資料（約30点）

○加茂歌代地区 澁谷龍生氏

佐渡の近代農業資料、教育資料、文芸資料

（合計約450点）

○群馬大学元教授 西垣晴次氏

佐渡の古文書資料（マイクロフィルム3巻、調査カード・写真等、約50点）

○羽吉地区 田中 要氏

『佐渡をうたうー鷺崎「鷺山荘文 学碑林」ー』
（新刊書籍）

○畑野地区 亀井輝夫氏

『小倉 長谷 猿八ガイドブック』（新刊書籍）

○埼玉県 風間 進氏

『復刻・齋藤長三著 佐渡政党史稿』 風間 進編
（新刊書籍）

○佐渡地域誌研究会

『佐渡地域誌研究』 第1号
～第5号（新刊逐次刊行物）

今後、これらの資料は調査・研究の上、末永く市民の皆様に活用できるようにしていく予定です。



佐渡農會報告第1号
（澁谷氏寄贈）

編集後記

佐渡市が発足して4年を迎えようとしています。それまでの市町村で取り組んでいた、歴史・文化の研究や文化財保護行政は、佐渡市全体を網羅しながら進められることになりました。もともと佐渡は一つの国でありました。そして地理的にも「島」という独立した位置にあります。

研究のフィールドとしては、地域がはっきり区切られているので、一見、取り組みやすそうです。しかしながら、その中身の多さ、深さ、分布の広さに

はいまさらながら驚くほどのものがあります。

南限、北限の植物がそれぞれ自生している。佐渡固有の動物が生息している。そんな自然環境の豊かさと、配流の地から、金銀山時代の人々の交流の足跡。芸能の多さなど日本の縮図といわれる所以がここにあるのでしょうか。

このような佐渡を知るために、皆さんが気軽に足を運ぶことができる研究所になればと思っています。

発行 佐渡伝統文化研究所（佐渡市教育委員会世界遺産・文化振興課内）

〒952-8501（専用番号）新潟県佐渡市両津湊198番地 佐渡市役所両津支所3階

電話（0259）27-4170 FAX（0259）27-4184

ホームページ <http://www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/denbun/>

佐渡市ホームページ→佐渡の歴史と文化→佐渡の伝統文化に関するページ